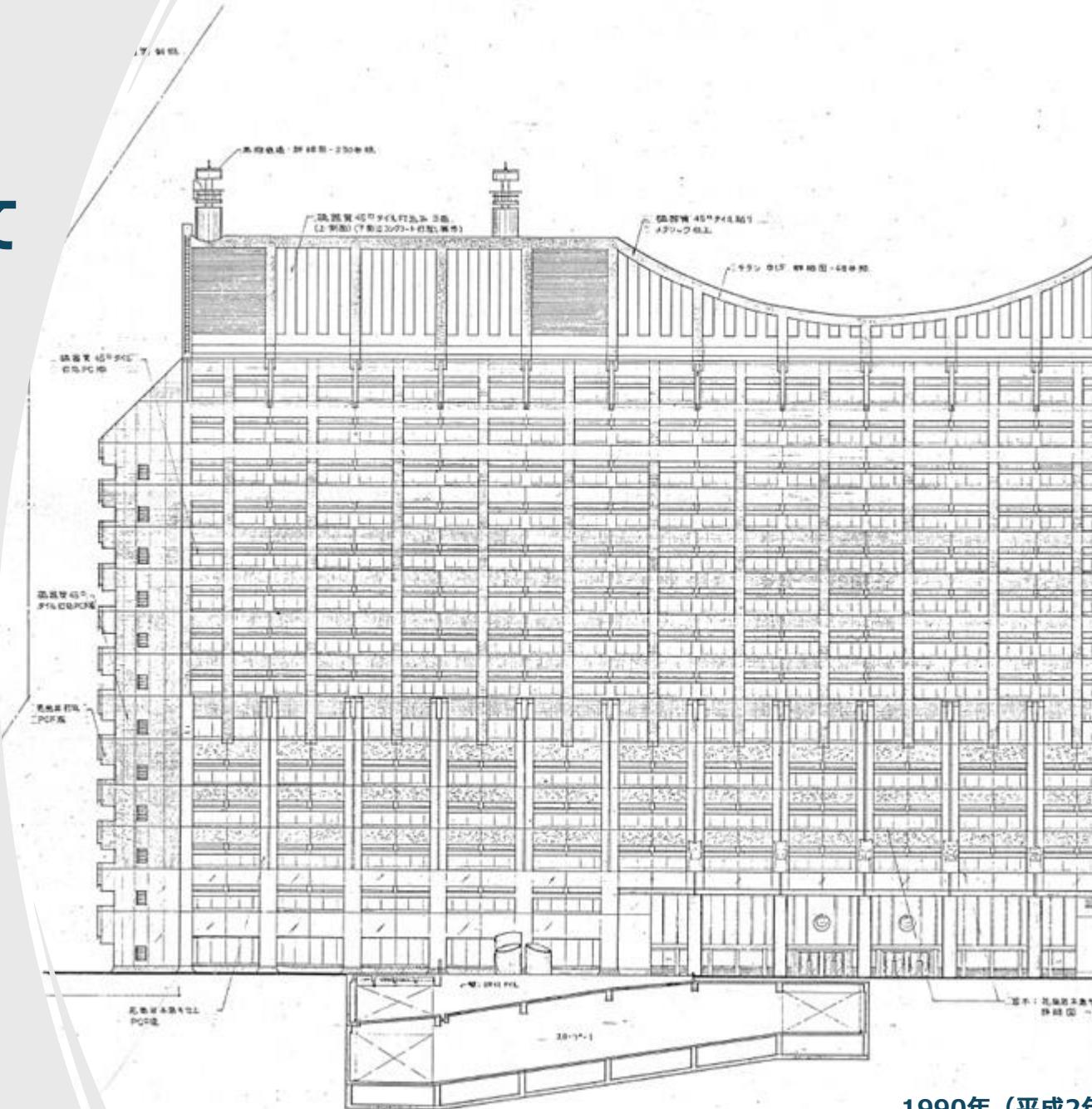


本庁舎（行政棟）改修の概要について

令和8年1月



沖縄県総務部 管財課



1990年（平成2年）

本庁舎（行政棟）改修の概要

本庁舎（行政棟）改修の概要

1 事業期間 : R5～R12年度（8年間）

2 総事業費 : 220億円（R5試算）

3 改修工事 : R6～R12年度（予定）

4 改修の目的

- (1) 県庁舎の長寿命化
- (2) 省エネ化・法令対応
- (3) ユニバーサルデザインの拡充（誰でも利用しやすい多様性に対応した庁舎づくり）
- (4) 執務環境の改善

5 実施方法（居ながら工事）

本庁舎の長寿命化に向けて、既存の県有施設を仮移転先として活用し、本庁舎の機能を維持しつつ、庁舎内・庁舎外への仮移転を繰り返しながら、効率的、合理的、経済的な改修を行う。

※仮移転先：旧県立図書館、三重城合同庁舎、南部合同庁舎、本庁舎地下1階食堂跡、等

6 改修・仮移転期間：R8.1月～R12年度末（予定）

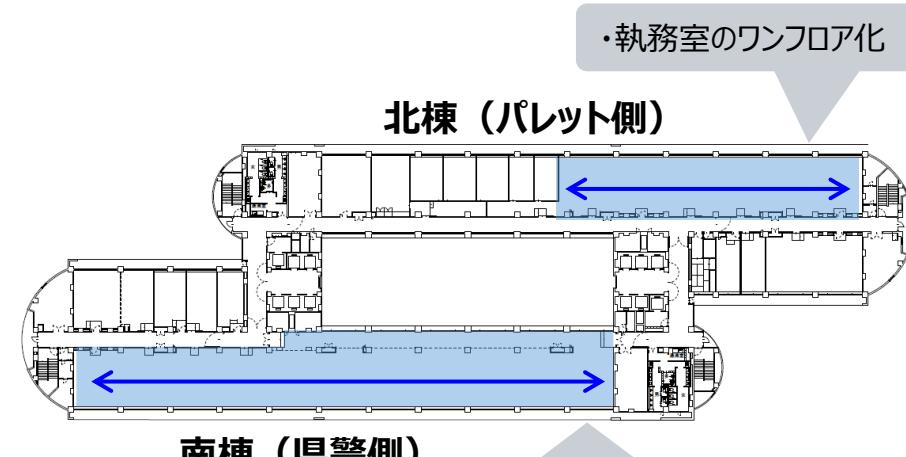
7 改修の具体例

目的	具体例
県庁舎の長寿命化	防水工事、屋外建具、配管類、空調設備、消防設備の更新など
省エネ化・法令対応	照明器具のLED化、天井の落下防止
ユニバーサルデザインの拡充	バリアフリー化、サイン計画（多言語化・ピクトグラム・色彩）、バリアフリートイレの拡充、トイレ構成の見直しなど多様性への各種対応
執務環境の改善	<ul style="list-style-type: none">・執務室のワンフロア化・部局間の執務スペースの平準化・ユニバーサルレイアウト*の導入（デスクなどの什器の統一化）・オープンスペースの設置（コミュニケーションの活発化、多様な働き方への対応） <p>※DX化による業務・手続の効率化、ペーパーレス化に向けた取組みとの連動を図る。</p>

* ユニバーサルレイアウト

役職席を決めず横並びに配置し、デスクを横一列にするレイアウト。組織変更（人員の増減）に対応しやすい、オフィスのスペースを有効活用できる、テレワークなどの多様な働き方にも対応しやすいなどのメリットがある。

8 改修後のイメージ（基準階）



・執務室のワンフロア化
・執務スペースの拡充（廊下を一部執務室に変更*3）

*3 対象フロアは7階～13階

改修後の主な変更点

改修後の主な変更点は以下のとおり

	項目	改修前	改修後	備考
施設の利便性の向上	照明機器	蛍光灯	LED	法令対応・省エネ化
	ユニバーサルデザイン	一部対応	ピクトグラム、多言語化、色彩計画	誰でも利用しやすい庁舎づくり
	多目的トイレ	・主に車いす利用者に対応 ・特定の階に設置	・オストメイト、多様な性などにも対応 (バリアフリートイレの導入) ・各階に2カ所ずつ設置	全体10カ所⇒29カ所に増設
	女性トイレブース	各トイレに2カ所	各トイレに4カ所	各階4⇒8カ所に増設
	温水洗浄付便座	多目的トイレにのみ設置	すべての便座に設置	節水型器具へ更新
	授乳スペース	なし	あり	沖縄県福祉のまちづくり条例
執務環境の改善	廊下と執務室の間の壁	あり	南側（県警側）7～13階は撤去	執務空間の創出
	課と課の間の仕切り	あり	なし（ワンフロア化）	各課専用からフロア共有へ最適化
	什器（執務デスクなど） 座席のレイアウト	・規格・サイズが不統一 ・島単位でのレイアウト	・規格・サイズを統一 ・ユニバーサルレイアウト（統一レイアウト）	組織再編に迅速に対応 空間効率の向上
	オープンスペース	なし	あり	・多様な働き方に対応 ・連携強化による新たな取組の創出 ・民間事業者等との協働・共創の推進

長寿命化、省エネ・法令対応（例）

長寿命化、省エネ・法令対応（環境負荷低減）

設備の更新 (長寿命化・省エネ化)

- ✓ 冷凍機、空調機、ポンプ、ファンの更新
- ✓ 年間電力消費量 (2017年度比)
約540万kWh → 約505万kWh
- ✓ 削減量 約35万kWh (▲7%)



照明設備のLED化 (省エネ化・法令対応)

- ✓ 庁内すべての照明機器をLEDに更新
- ✓ 年間電力消費量 (2017年度比)
約180万 kWh → 約71万 kWh
- ✓ 削減量 109万kWh (▲61%)

2017 (H29) 年度比 エネルギー約22%削減

- ✓ 年間電力使用量 ▲144万 kWh (▲22%)

→ 電気料金換算 ▲4,560万円

※2024 (R6) 年時点の単価:31.67円/kWhにて試算

→ CO₂排出量換算 ▲102万 kg-CO₂/年

ユニバーサルデザインの拡充（例）

ユニバーサルデザイン・バリアフリー（サイン計画）

- ✓ 東西で色彩のコントラストを付け、利用者が分かりやすい庁舎へ
- ✓ 色覚異常の方へも配慮した色彩計画
- ✓ サインの多言語化により、利便性の向上を図る
- ✓ ユニバーサルフォントを用いることで、視認性の向上を図る
- ✓ JIS規格のピクトグラムを用いることで、直観的に理解できるサイン計画へ
- ✓ 階数表示に「しまくとうば」を採用



ピクトグラム（JIS規格）



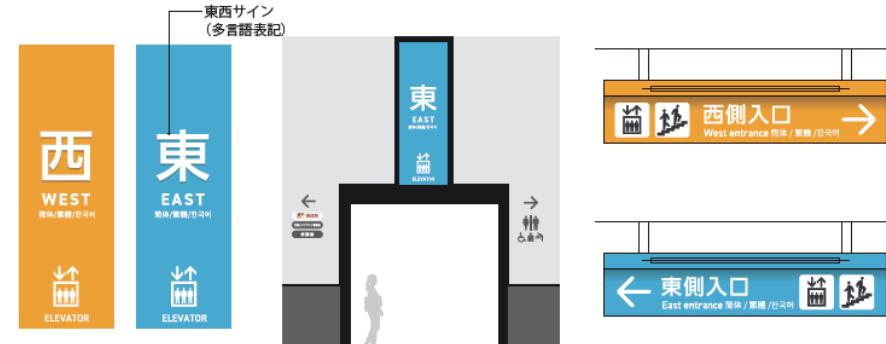
サインの多言語化



しまくとうば表記



利用者がわかりやすい色彩計画



ユニバーサルデザイン・バリアフリー（トイレ）

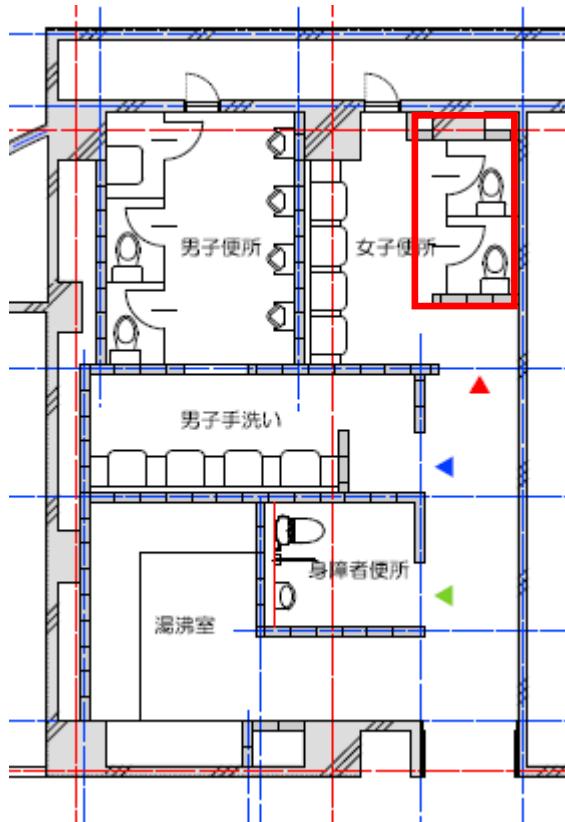
- ✓ バリアフリートイレを各階に2カ所ずつ設置
- ✓ 各階の女性トイレベースを2カ所ずつ増設（2⇒4か所）
- ✓ 節水型便器を用いることで、使用水量を約1/2に削減
- ✓ 温水洗浄付便座の導入

「バリアフリートイレ」

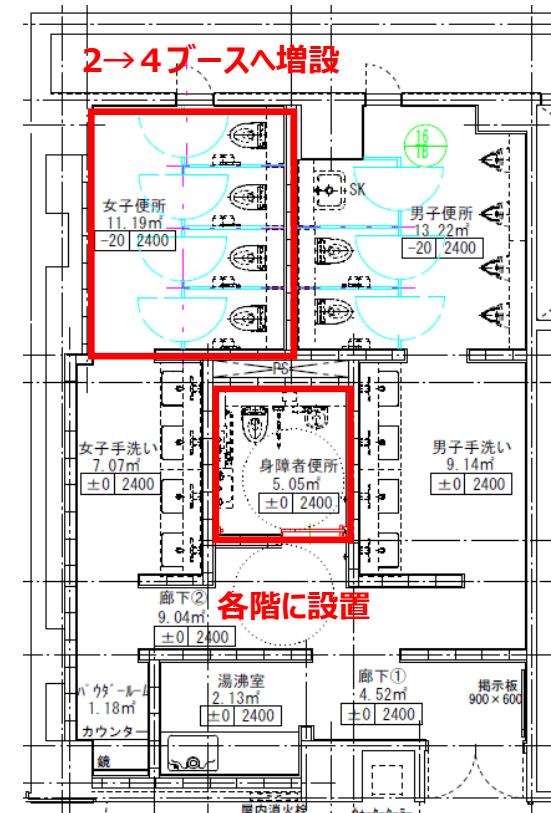
- ・車椅子使用者
- ・発達障害など同伴が必要な人
- ・乳幼児連れの人
- ・オストメイト使用者
- ・多様な性
- などに配慮したトイレ



▼トイレの構成の見直し



改修前



改修後

※ トイレは各階に東側・西側の2カ所設置されており、
それぞれ構成の見直しを行います

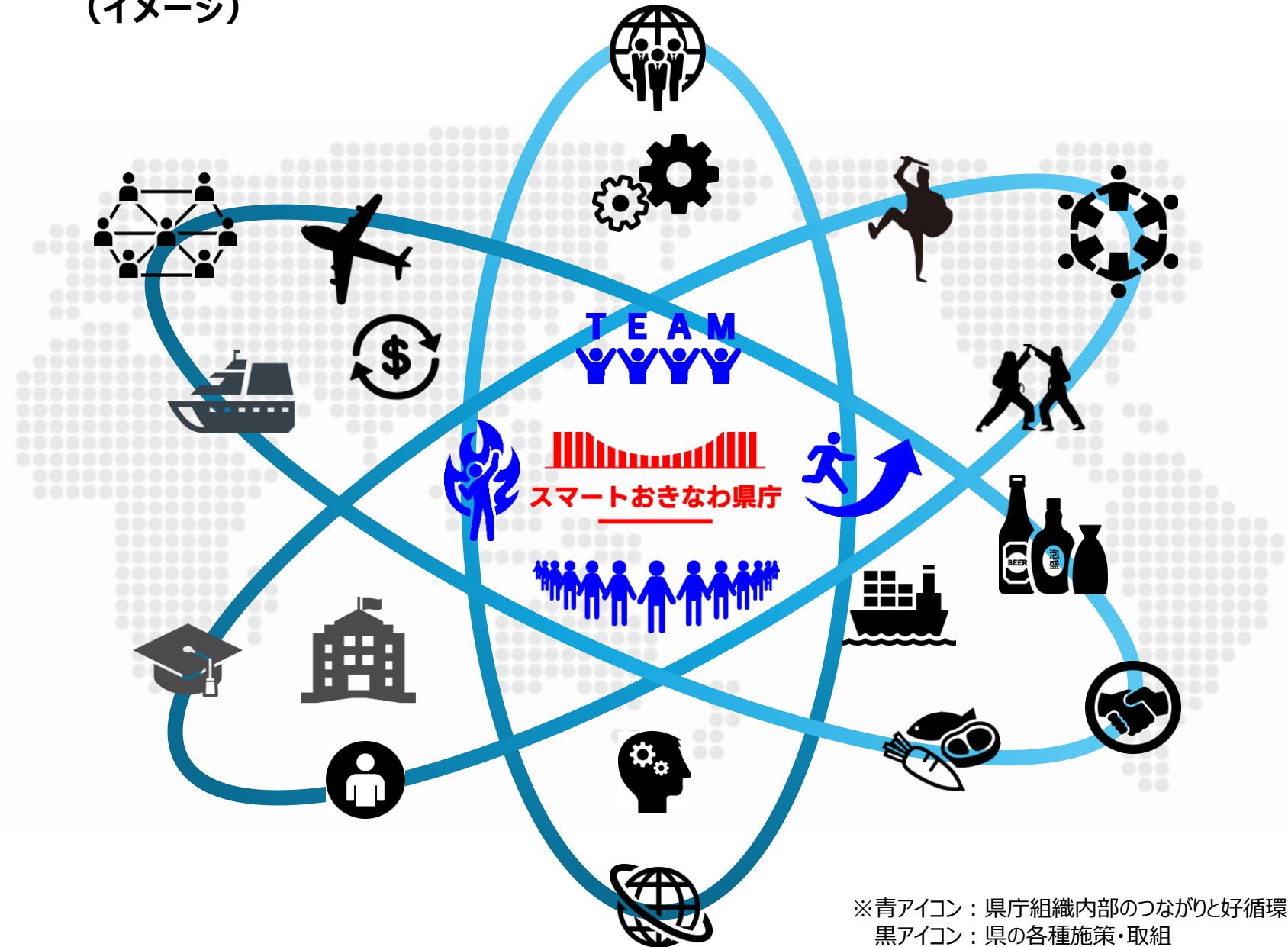
| オフィスコンセプト

新しい執務環境の オフィスコンセプト

つながりと共感

-つながりが共感を生み、未来を共創する拠点へ-

(イメージ)



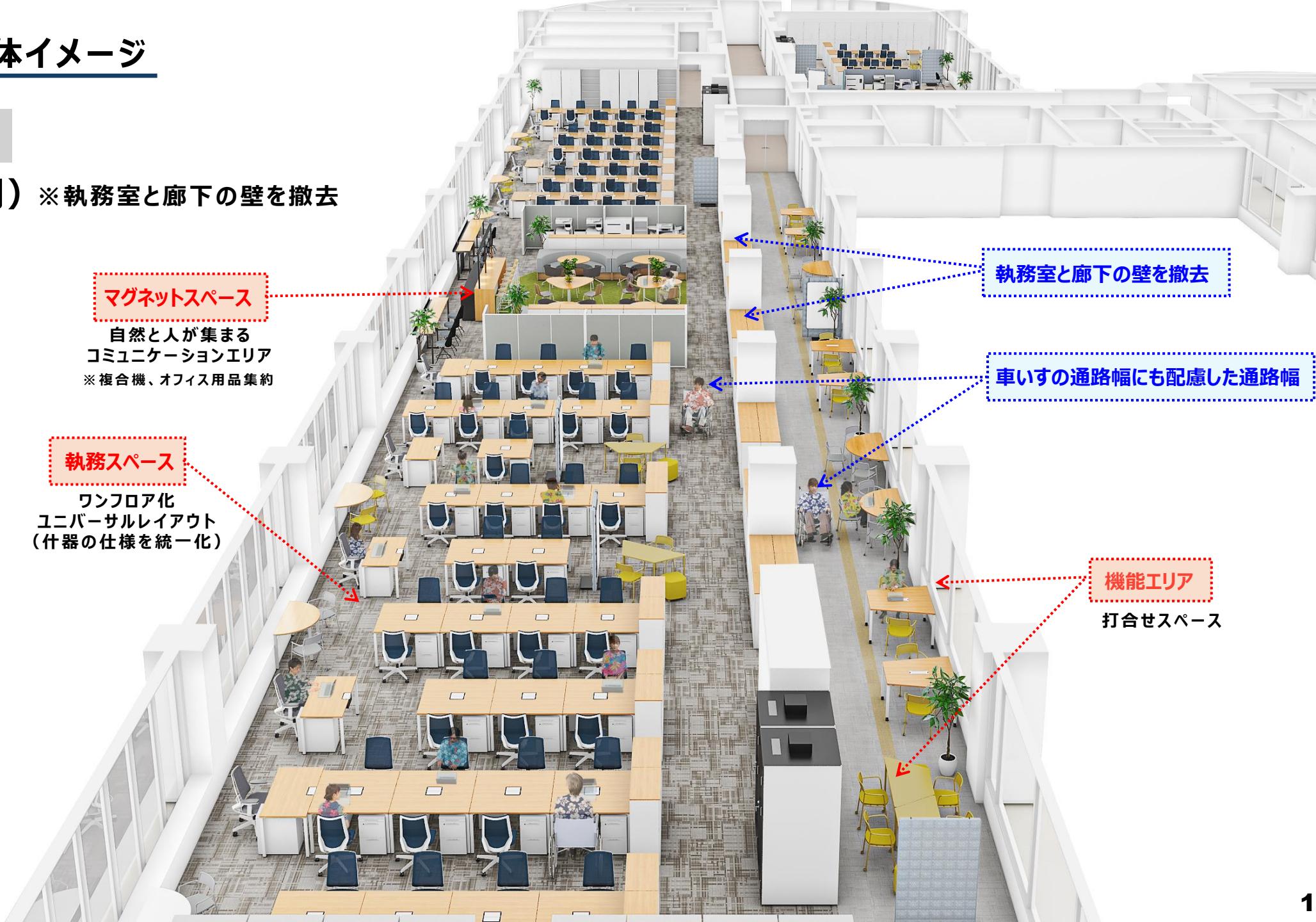
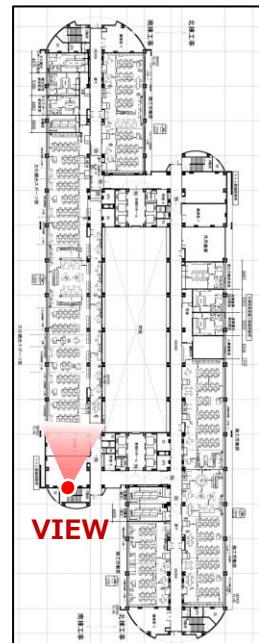
※青アイコン：県庁組織内部のつながりと好循環
黒アイコン：県の各種施策・取組
青ライン：各分野とのネットワーク
背景の地図：県内外・世界とのつながり

執務環境の改善 —改修後の執務室のイメージ—

執務エリア全体イメージ

基準階PLAN

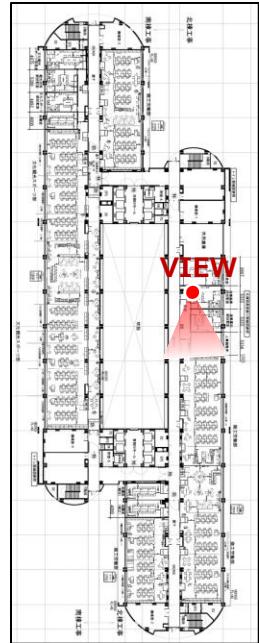
南棟（県警側）※執務室と廊下の壁を撤去



執務エリア全体イメージ

基準階PLAN

北棟（パレット側）



マグネットスペース

自然と人が集まる
コミュニケーションエリア
※複合機、オフィス用品集約

執務スペース

ワンフロア化
ユニバーサルレイアウト
(什器の仕様を統一化)

※北側の廊下は維持

車いすの通路幅にも配慮した通路幅

機能エリア

打合せスペース

基準階PLAN

鳥瞰パース

北棟（パレット側）

南棟（県警側）

自然と人が集まる＝マグネットスペース

▼期待される効果

- 1 職員間の交流・コミュニケーションの活性化
- 2 情報共有、連携強化、新しいアイディアの創出
- 3 多様な働き方に柔軟に対応
- 4 業務の効率化と生産性向上
- 5 職員の働く満足度とモチベーション向上

※各部局へのヒアリングにより、スペースの活用方法を決定します

| 執務環境の改善 —オープンスペース（案）のイメージ—



※R12年度末予定の本庁舎改修後のイメージです
(改修期間中は執務室の仮移転先として使用)

※ランチタイムは食堂、それ以外の時間帯はオープンスペースとしての利用を想定

地下階 食堂跡地 オープンスペース（案）

VIEW①

▼期待される効果

【県庁内部のつながり】

- ・職員間の交流・コミュニケーションの活性化
- ・部局間の情報共有、連携強化 → 新しい取組
- ・Web会議など多様な働き方に柔軟に対応
- ・業務の効率化、生産性向上 → ワークライフバランス
- ・モチベーション、帰属意識の向上 → 人材確保



【外部とのつながり】

- ・県民、民間事業者、関係機関等との協働・共創の推進
- ・地域のニーズに応じた施策の展開
- ・新しい価値の創造、イノベーションの創出

VIEW②

- ✓ 持続可能な組織環境
- ✓ 県民サービスの質の向上
- ✓ 社会課題の解決

